

ホーム名：グループホーム第2東神田の里 あかしあ通り（1階）						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関の見えやすい所には、法人の理念を掲示して、管理者、職員等が理念の共有に繋げ、職員間で考えた標語をご家族様や外来者にも伝わる場所に張り出し、職員一丸となり実践に繋げている。	玄関に掲げているいわき会の理念に基づき、ユニットごとに話し合い、定期的に目標を決定している。それを食堂やキッチンに掲示し、自分たちの意識付けにもつなげている。	東神田の里とは、隣接、一体運営状態かと思われるが、目標や実践の共有し、職員間の交流にも期待をしたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止するために、地域交流の場に参加できない、交流の場がなくなっている。	小学校の運動会を利用者が見学したり、事業所スタッフが地域の清掃活動に参加したりしている。事業所が自治会に加入し、役員も運営推進会議に参加いただいている。現在はコロナ禍で地域との交流は停滞しているが、情報交換は変わらずできている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会役員の方に参加して頂き、研修内容の報告や、入居者のケアの方法を認知して頂ける様認知の方の理解を深めているが、新型コロナウイルス感染予防とし、地域貢献が進まない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者様、家族様、町内会役員、市役所職員、包括支援センター職員から聞かせて頂きサービス向上に活かしている。新型コロナウイルス感染拡大予防の為、書面にて実施又は、中止しています。	自治会役員、地域包括支援センター職員が出席している。以前は利用者や家族も参加していたが、現在は参加が難しい状態である。議事録をユニットリーダーと共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染予防につき市町村担当者、社会福祉協議会の職員等に現場の実情を電話連絡にて伝えている。	生活保護を受給している利用者に関して、ケースワーカーと連携し、措置入所に関する協力も行っている。受入れ困難な利用者について、高齢介護課と相談体制を構築し、運営推進会議の議事録も共有している。	今後、他のグループホームの運営推進会議に参加したり、招いたりしてはどうか。他の事業所と連携することも有意義であると思われる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待等への理解を得る為研修会のテーマに挙げている。身体拘束をやむを得ずに行う場合は、家族様に十分に説明をした上で同意書を頂き、毎月カンファレンスを行い、早く身体拘束をしない方向へ向かう様に職員で話し合う場を設けている。	身体拘束を含む虐待について研修を年2回行っている。家族から身体拘束についての要望があった場合においても、身体拘束しないケアについて説明し、理解を得ており、事業所開設以来拘束はない。3ヶ月に1度の実施が義務付けられている検討委員会も、毎月のユニット会議で実施されている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待については、職員全体で入浴、排泄時等に注意を払い防止に努めており、ユニット内でも職員間でコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境作りに努めている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を理解できていない部分もあり、年間研修を通じて制度に触れ、対象となる入居者に対し、後見人制度が活用できるよう関係者との連携をはかり。支援しているように努めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時には入居者様や家族様に十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でもわからないと言われた場合には随時訪問させて頂き説明を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様やご家族様に運営推進会議に出席して頂くように声を掛けさせていただきご意見、ご要望等をお聞きして運営に反映させている。又、ご意見箱の設置も行い、意見を取り入れるように努力している。</p>	<p>家族と話をする機会を積極的に設け、要望や意見を積極的に取り入れてケアに反映させるよう心掛けている。 家族との連絡手段も、要望に応じて、電話とメールで対応している。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度、リーダー会議、ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。</p>	<p>管理者は、ユニットリーダーとの密な連携を心がけている。職員1人1人ともヒアリングを行うよう心掛けている。 職員から管理者へ相談しやすい関係を構築できるよう努力している。</p>	<p>職員の資質向上、意識改革の必要性を感じている点について、研修も効果的であるが、まずはヒアリングの頻度を増やして、1人1人の個性や考えと向き合う体制作りから始めてはどうか。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人内の職員が目標を持って働けるような環境整備に努め、職員に資格がとれやすいよう研修への参加を促しスキルアップに努め、定期的に施設内研修を行い、一人ひとりが仕事にやりがいを持てるように担当者を決め実践している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修や資格など働きながら取得できるように育成に取り組んでいる。施設内外の研修には、出来る限り参加すると共に参加できなかった人にも分かるように講習や研修等を行い知識の向上に努め、報告書や資料も見られるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同法人内や、寝屋川市内でのグループホーム事業所での報告連絡会に出来るだけ参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があった場合は入居者ご本人様、家族様に必ず一度居室を訪問して頂くように声掛けを実行していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、現在は窓越しにて居室を見て頂き居室内の説明を行いにゆうきよしゃさまご本人に安心して入居して頂くよう務めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居契約時に困っている事、不安な事、要望などを聞いて確認させて頂くように努めています。また、不安がある場合には、入居契約後であっても、来所して頂き説明して信頼関係を深めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービス等に確認し対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様のできない事に注目するのではなく、できる炊事や洗濯等は毎日職員と共に、又は入居者様同士で行い、職員はできる限り入居者様に寄り添い会話し、入居者様同士の交流を深める様に努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様の都合に合わせて外出や外泊、外食等自由に行っていましたが、新型コロナウイルス感染予防とし、面会はタブレットを使用しビデオ通話で過ごして頂いている。外出・外泊・外食は、現在新型コロナウイルス感染予防の為行えていない。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族様や知人の方の面会は自由でいつでも来ていただいていたが、新型コロナウイルス感染予防策とし、現在は面会中止していたが、緊急事態宣言の解除に伴い一部条件付きで再開を始め、面会の際には検温、手指消毒マスク着用し短時間でやっている。</p>	<p>ご家族の協力のもと、散髪はなるべく昔からの馴染みの店を利用できるように支援している。フェースシートだけでなく、普段のケアの中で知り得た利用者の好みや趣味などをケアに取り入れるよう努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>椅子やテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る位置の移動を行う。入居者様が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態等の場合にも、移動先の入居者様に確認後、一時的に席の変更もさせて頂いている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他事業所に移られても、必要な情報は必ず提供している。転居された方に対しても面会等行い、関係が途切れない様になっている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声掛けの際、入居者様の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合は居室にてお話を聞かせて頂き対応している。	普段のケアの中で利用者の想いを把握するよう努め、把握が困難な場合は家族から聞き取りを行っている。 スタッフが気付いたり気になったことを「気付きノート」に記録し、スタッフ間での共有や通院時の情報提供に活用している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、また必要があれば申し送りノートを活用し職員間で連絡を取れるようにしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しは勿論だが、日々状態の変化がある時には、家族様の意見、意向を尊重しながらその都度会議で意見を出し合い利用者様に対して何が良いのかを探しながら計画の変更を行っている。また、月に一度ではあるが、ユニット会議でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。	介護スタッフが利用者や家族から知り得た情報は、ユニットノートに記入して、ケアマネジャーとも情報共有を図り、ケアプランに反映させるよう努めている。 誰のケアプランか一目でわかるほど、利用者個人の状態がよく反映されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わったそれぞれの職員が生活記録に適宜記入を行い、情報を共有し活かし、介護計画作成の基本としている。個人記録や申し送りノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用できるよう、家族様や成年後見人等に確認して利用して頂けるように取り組みを行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方の利用や地域の行事に参加する事でリフレッシュして頂けるように心掛けていたが、新型コロナウイルス感染予防とし外部との接触を避ける為ユニット内で体を動かせながら楽しんで頂ける様にしている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ本人様や家族様に添った、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている。	事業所の協力医による定期的な受診に理解をいただき、迅速かつ適切な対応を心がけている。一方で、かかりつけ医の希望がある場合は、家族の協力を得ながらその意向を優先している。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない為、訪問看護師に週一度、訪問して頂き、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には、24時間連絡出来る体制をとっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の入院や退院時には、職員が家族様、成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。また、入院先医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、家族様が訪問された場合にお話をさせて頂いている。重度化した場合は、このまま施設で見てもらえるのかと不安を訴えられる場合もあり、その都度説明を行い、家族様の意見や意向を聞かせて頂いている。</p>	<p>入所の際に看取りについて書面で聞き取りを行っているが、状態が落ちてきた段階で、意向が変わっていないか再度確認をしている。終末期でも受け入れし、利用者に寄り添ったケアを心がけている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訪問看護師による事故発生時及び初期対応の勉強会を定期的に行っている。全員参加できていない場合はミーティング等により伝達講習を行っている。また、事故、急変時スムーズに対応できるよう、希望搬送先や家族様の連絡先再確認、緊急時の職員召集順位などを決めてい</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を通して昼夜の非難誘導や災害時の避難経路を災害マップで確認し、安全な避難方法を検討すると共に運営推進会議にて地域の方への参加も促している。又、消防訓練時には、自治会役員の方にも参加して頂き訓練を行っている。自治会役員の方より、夜間に避難時には応援に来て頂けるとの声も頂いている。</p>	<p>避難訓練を年2回実施し、夜間想定も行っている。隣接する特養は福祉避難所にもなっており、水災・震災など原因に応じて連携して対応する。また、地域の防災会議にも参加して、地域との協力体制も整えられている。</p>	<p>東神田の里とは、隣接、一体運営状態かと思われるので、職員同士が連携した取り組みにも期待をしたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内に接遇委員会を設置し入居者様への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の標語を施設内の良く見える所に貼り、職員の意識付けを行っている。職員の対応等、家族様へのアンケートも実施している。	利用者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように都度声掛けを行い自己表現や意見の言い易い環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者様一人一人の気分や体調等に配慮しながら、入居者様の希望を第一に考えて援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問内容をとり入れている。また、起床時は洋服を確認し、外出時には、外出着に着替えを行えるように声かけを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設では、食事の提供は栄養面や衛生面を考えて、食事は業者に発注している。手作り食では、普段の会話の中から嗜好を確認し提供している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、手作り食は中止している。	月に一度手作りメニューの日を決め、利用者の手を借りながらみんなで調理をしている。普段にはないメニューのうえに、自分たちで作るため、利用者の食欲もいつも以上とのこと。コロナ前は、利用者の好みに合わせて外食も楽しんでいた。	外食はできないが、デリバリーサービスなども活用し、コロナ禍においても「特別な食事」を体感できる機会があると利用者も楽しめるのではないかと。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事チェック、排泄、水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握し、1日の摂取量が確保できるように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には、促しを行い、介助が必要な方には職員が介助を行いケアしている。食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るように心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを知り個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導をする事により失敗を少なくするよう努めている。	自立・見守り・一部介助など、利用者が自分でできる能力を伸ばす細やかなケアを心がけている。 2時間ごとに定期巡回し、利用者の排せつのタイミングに支援できる体制を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、毎日の運動やレクでの風船パレーの実施、おやつ時にヨーグルトや繊維質の食べ物と提供し、排泄チェック表を使用して、KOTのカウントを実施、3日間排便がない場合は、医師の指示により、薬剤を使用して排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めずに行うように支援を行い、午前中を希望される方や1番先に入浴を希望される方、一人で入浴を希望される方を把握して、見守り、介助を行い入浴して頂いている。また、入浴して頂けない方には、足浴を行って	入浴は週2回、1日3人～4人程度。 本人の拒否があれば無理強いせず、翌日に振り替えるなどの対応を行っている。 毎日入りたいなどの要望があれば、できる限り対応している。	

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、スタッフが居室内で一緒に話をさせて頂いたり、フロアに来て頂き一緒にお茶を飲んで頂く等、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、職員が行っており、各職員には、服薬の副作用や用法、容量は処方箋にて確認するように伝達している。薬の変更があった場合は変化をDrに報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個人の能力に合わせ、役割等を行っている。普段の会話から好きな嗜好品や楽しみ事等を把握し提供するように心掛けている。また、天候の良い日には職員が付き添い散歩に出掛け季節を感じて頂き気分転換に努めている		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルスが流行りだし外部との接触により高齢者施設の為重篤化の恐れがある為、気分転換の散歩やなじみのお店・買い物支援が出来なくなっている。現在は感染予防対策を行い洗濯物干しなど施設近隣にはマスク着用し、外から戻ってこられたら手洗いがいい、手指消毒を行っている。	2～3人の少人数で日常的に散歩や買い物に行けるよう支援を行ったり、デイサービスのキャラバンを借りて外出を楽しめるよう計画したりしていたが、コロナ禍で思うように外出できていない。 外気浴や受診の際の外出時など、少しでも外気に触れ、季節を感じられるように支援している。	東神田の里とは、隣接、一体運営状態かと思われるので、外気浴等で、利用者同士の交流にも期待をしたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理不能な方には、家族様、成年後見人等と話し合い、金銭管理を施設で行って金銭出納帳を作成して、家族に残金確認をして頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも利用できるように支援している。希望者により、居室に携帯電話を置いて頂く。手紙が来たときには、返事を書くように支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者様が皆で作成した貼り絵や入居者が作成した作品を飾る等の工夫を行い、入居者様が快適に過ごせるようにしている。又、スタッフが温度調節やカーテンでの光の調節を行っている。	共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾をし、利用者が作成した作品を掲示している。 行事の写真は、利用者の記憶の刺激や、会話のネタにもなっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、入居者様同士の関係性に配慮し、馴染みの方と過ごせるよう工夫している。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し本人様が落ち着き居心地良く過ごせるよう、ラジオ、テレビ、椅子、机等、各個人に馴染みのある品を置いて頂き、居心地の良く過ごせるように努めている。また、本人様に確認して、塗り絵、書道等の作品を壁に貼っている。	利用者の居室は、希望があれば家具などの使い慣れたものの持ち込みを可能としており、その人らしい生活が送れるよう配慮されている。 常に気持ちよく利用者が生活できるよう、換気や清掃にも気を配っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には貼り紙を行い場所が明確になるように工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない